

2) 山梨県下における越冬蚊採集成績

齊藤一三, 飯島利彦, 葉袋 勝, 三木阿い子

1969年の1月と3月に山梨県下において越冬蚊の調査をおこなった。調査の目的は日本脳炎ウイルスの媒介蚊コガタアカイエカの越冬状態を調査することであり、本年は特に防空壕等の洞穴を中心にその調査をおこなったので、その成績について報告する。

調査場所および方法

韭崎市祖母石地区は韭崎市の北西の釜無川と塩川とにかこまれた甲州街道沿いの七里が岩台地南側に位置し、台地と釜無川との間にはわずかに水田が開けている以外は民家が散在している程度である。採集をおこなった場所は戦時中に七里が岩の斜面に掘った防空壕跡である。採集地点の記号は韭崎市に近い地点をA点とし、以下B, C……G点と呼んだ。

韭崎市穂坂地区は韭崎市北側の塩川の上流に位置する。塩川沿岸にはわずかに水田が開けている。又、山脚部には桑園が開けている。採集をおこなった場所は山脚部に戦時中に掘った防空壕跡及びかんがい用水路内で行なった。この場所は民家からはかなり離れており、住家からは隔離されている様な場所である。

甲府市地区は甲府市の北方の湯村山(400 m, 緑が丘), 愛宕山(439 m, 愛宕, 善光寺)の山脚部の洞穴等で採集をおこなった。これらの場所はいずれも市街地に接近しているところで、市の南側には水田が広く開けている。

山梨地区は笛吹川の上流に位置し、水田、桑園、果樹園が混じっている純農村地帯である。採集をおこなった場所は通称万力山地と呼ばれている丘の山脚部に戦時中に掘った防空壕跡で、その近くには農家が散在している。

下部地帯は富士川上流に位置する山間部で大部分は山林で示められ、わずかに段々の水田が認められる。農家がサツマイモを貯蔵する目的で掘った穴を中心に採集をおこなった。

大月地区は甲州街道沿いで、桂川の上流に位置し、水田は少なく、山脚地帯には桑園が開けている場所で、市街地を少し離れた農家のサツマイモ貯蔵所、防空壕跡を中心に調査をおこなった。

方 法

蚊の採集は吸虫管を用い、洞穴、防空壕跡等の壁面に

休止している成虫を採集した。採集時間は1人、10分間と、その間出来るだけ多く採集し、研究室に持ち帰り、同定及び個体数の算定に供した。

成績および考察

採集成績は表1にまとめて示した。採集総数は2属、6種、1627個体である。これらのうち最も多いものは、ハマダラウスカの895個体(55.0%)、アカイエカの637個体(39.2%)でこの2種類で全採集数の94%以上を示している。以下コガタクロウスカの69個体(4.2%)、アカクシヒゲカの22個体(1.4%)、ミナハマダラカの2個体(0.1%)、エセシナハマダラカの2個体(0.1%)の順となっている。これらのうちで雄(3個体)が採集されたのはコガタクロウスカだけで、他の種類は全て雌成虫のみであった。又、今回の調査ではコガタアカイエカ成虫は全く採集されなかった。この点高橋(1962)、原田ら(1963)の成績と一致する。

地域別についてみると韭崎市祖母石地区ではハマダラウスカが最も多く、採集数の大部分を示している。次いでアカイエカ、コガタクロウスカ、エセシナハマダラカの順となっている。この地区において韭崎市に最も近いA点において、他の調査地点に比べアカイエカ成虫の採集数が多い点が注目される。

甲府、山梨、大月地区は韭崎市祖母石地区の成績とは異なり、アカイエカが採集数の大部分を示め、次いでハマダラウス、その他の順となっている。

韭崎市穂坂地区では前2者とは異なり、ハマダラウスカ、コガタクロウスカの2種が採集されたのみで他の種類は全く採集されなかった。

下部地区は採集数は非常に少なく、わずかにハマダラウスカ1個体採集されたにすぎなかった。

富士五湖地方において、農家のサツマイモ貯蔵所、風穴、氷穴等を中心に採集調査をおこなったが今回の調査では越冬蚊の成虫は全く採集されなかった。

以上のことから考察するにアカイエカの越冬成虫は人家(市街地)に近い防空壕跡などで多く採集され、人家から離れるにつれその採集数は減少する傾向がみられる。又これとは逆にハマダラウスカの越冬成虫は人家の少ない水田に近い防空壕内などで多く採集される傾向がみられる。この様な傾向は原田ら(1963)、和田ら(1968)の報告からもうかがえる。

表 1 越冬蚊採集成績

採集月日	採集場所	採集洞穴	洞穴内 気温 (°C)	アカイ エカ	ハマダ ラウス カ	コガタ クロウ スカ	アカク シヒゲ カ	シナハ マダラ カ	エセシ ナハマ ダラカ	計	
1—20	韮崎市祖母石 B	防空壕跡	8		53					53	
〃	〃 C	〃	7	4	113					117	
〃	〃 D	〃	7	2	36	13				51	
〃	〃 E	〃	8	4	40	3			1	48	
〃	〃 F	〃	7	9	145				1	155	
〃	〃 G	〃	7.5	1	108					109	
3—7	〃 A	〃	5	42	64					106	
〃	〃 C	〃	4		45	1				46	
〃	〃 F	〃	5	3	174					177	
1—21	下部町大炊平	サツマイ モ貯蔵所	9		1					1	
1—22	甲府市緑が丘			110	1	1				112	
〃	〃 愛宕町 A		5	2	1					3	
〃	〃 〃 B		5	5						5	
〃	〃 善光寺町		7	203	3	2(1)				208 (1)	
1—23	山梨市万力 A	防空壕跡	6	26	8	3(1)				37 (1)	
〃	〃 B	〃	6	26	14	2				42	
〃	〃 C	〃	7	72	24			2		98	
〃	塩山市小屋敷	〃	13		1					1	
1—25	韮崎市穂坂 A	防空壕跡	9		4	31				35	
〃	〃 B	〃	5		13					13	
〃	〃 C	用水路	8		8	4				12	
3—10	大月市小倉 A	サツマイ モ貯蔵所	5	6						6	
〃	〃 〃 B	〃	6	46	2		5			53	
〃	〃 七保	防空壕跡	8	59	36	3(1)	16			114 (1)	
〃	〃 富浜 A	〃	8	7		3				10	
〃	〃 〃 B	〃	8	10	1	3	1			15	
計					637 (39.2%)	895 (55.0%)	69(3) (4.2%)	22 (1.4%)	2 (0.1%)	2 (0.1%)	1,627 (3)

地域によって越冬蚊の種類および個体数に差が生ずるのは越冬体制に入った蚊成虫は発生源よりあまり遠くへは移動を行なわないためにおこるのではないかと考えられる。この点について今後さらに調査をする必要がある。

ま と め

- 1) 1969年1月と3月に山梨県下において洞穴等を中心に越冬蚊の調査をおこなった。
- 2) 採集総数は2属、6種、1627個体で、その内訳は、ハマダラウスカ895個体、アカイエカ637個体、コガタクロウスカ69個体、アカクシヒゲカ22個体、ミナ

ハマダラカ2個体、エセミナハマダラカ2個体である。

- 3) 成虫で越冬をおこなう蚊は発生源よりあまり遠い場所へは移動は行わず、発生源の近くで越冬をおこなう傾向がみられた。すなわちアカイエカ(主たる発生源は市街地の汚れである)は人家に近い洞穴等内で、ハマダラウスカ、コガタクロウスカ(主たる発生源は水田である)は水田近くの洞穴内等で越冬を行なわず傾向がみられる。

文 献

- 1) 原田文雄, 小林一郎, 森谷清樹, 武田久雄, 石井襄

- 二 (1963) : 日本脳炎の疫学に関する研究; (2)
神奈川県下の越冬蚊採集成績 神奈川県衛生研究所報;
12 : 66—79。
- 2) 佐々 学, 浅沼 靖 (1948) : 蚊を調べる人のために
東京出版, 210頁。
- 3) 高橋三雄 (1962) : 神奈川県における蚊の越冬期採
集と日本脳炎ウイルス分離 (抄); 予研年報; 15 :
217。
- 4) 和田芳武, 神谷正男, 三浦悌二, 豊川行平 (1968)
: 伊豆半島および千葉県鋸山における越冬蚊採集成
績 衛生動物, 19 (1) : 82—83。